郷土と歴史

桑都八王子かるた　解説

改訂版

桑都八王子かるた発行にあたって

私たちは、八王子市郷土資料館で展示ガイドボランティアの活動をしています。歴史が好きで、「歴史を学び時代の流れを知る」ことが大切ではないかと思っています。

「八王子かるた」は市民や子どもたちが、八王子を見直すための道標となるのではないかと、私たちボランティアが企画したものです。初版は、「今と昔の八王子を知りたい、知らせたい」の一心で、皆で八王子の歴史を勉強しながら項目を選び、解説文を考え、絵を描くなど、三年かけて平成一六年に完成しました。

おかげさまで好評を得て、増刷版も完売し数年が経過し、その間、再版についてのお問い合わせをしばしばいただいておりました。

このたび、八王子のストーリーが都内で唯一の「日本遺産」の認定を受けたことを記念して、日本遺産の構成文化財を踏まえて内容を修正し、タイトルも「桑都八王子かるた」として、改訂版を発行する運びとなりました。

このかるたが一人でも多くの市民や子どもたちの目にとまり、我がふるさと八王子への愛着と、将来の発展につながる糸口になれば、この上ない喜びです。

なお、「八王子かるた」作成にあたり郷土資料館の皆さんには多大なご援助とご指導をいただきました。心から感謝申しあげます。

二〇二一年　春

八王子市郷土資料館ガイドボランティア

かるたの内容について

○内容は歴史や伝統文化の材料ばかりではなく、八王子の昔と今の勉強を通じて、夢のある未来の八王子を描いて欲しいとの願いをこめて、織物、ニュータウンなど、いくつかは現在的なものも含めて長い時間の中で選びました。

○「日本遺産」の認定ストーリー「霊気満山　高尾山　～人びとの祈りが紡ぐ桑都物語～」の構成文化財を取り入れていますが、文化財の名称とは必ずしも一致しません。

○かるたには「解説のしおり」と「年表・コメント付の簡単な地図」を添付しました。

○「ゐ・ゑ」の二文字は現代かなづかいの視点からはなじみにくく、採用の是非について意見が分かれました。実際に明治、大正期の小説や

文書を読むには必要であり、日本の文字文化から、積極的に抹消する理由に乏しいなど、歴史的視点から採用することにしました。

あ

案下道　夕やけこやけ　里の道

（案下道）

案下道は甲州街道を追分で分岐して水無瀬橋（南浅川）をわたり、横川・諏訪・恩方を経て案下峠（和田峠）を越えて相模原市緑区佐野川に至ります。戦国時代、甲州への近道として栄え、江戸時代には、佐野川往還とも呼ばれていましたが、昭和三八年（一九六三）に陣馬街道と改称されました。小田原北条時代には甲州警備のため、案下峠に番所を設置しました。徳川幕府も高留に口留番所を置きました。街道筋に、下原刀発祥の地、浄福寺城跡、童謡「夕焼け小焼け」の作詞者中村雨紅の生家跡などがあります。一九九二年～二〇〇七年、春と秋の日曜日にはボンネットバスが走っていました。現在は「夕焼けこやけふれあいの里」に展示されています。

㋑ 今熊山（い）　三（ま）つ葉（く）つつじの（ま）　ハイキング（や）（ま）

（今熊山）

上川町西部に位置し、表、裏参道等のハイキングコースがあり、表参道山麓には一五〇〇本のミツバツツジが植栽され、毎年四月中旬頃には家族連れでにぎわいます。また、北麓には八王子市内ではもっとも見ごたえのある「金剛（こんごう）の滝」があります。今熊山は安閑（あんかん）天皇（六世紀前半）の伝説から、行方不明の人の名を三度呼べば帰ってくるという言い伝えがあり、古来より「よばわり山」ともいわれています。また、山麓には今熊神社があり毎年八月の祭礼には市の指定無形民俗文化財となっている三匹の獅子舞（ししまい）が奉納されます。

㋒ 氏照と　比佐の笛の音　月夜峰

（北条氏照）

北条氏照〔天文九年？（一五四〇）～天正一八年（一五九〇）〕は小田原北条氏三代当主氏康の三男として生まれました。大石氏（滝山城城主）の養子となり娘比佐をめとったといわれています。父氏康・兄氏政と関東支配を固め、後に八王子城を築きました。小田原北条氏は天正一八年（一五九〇）七月に豊臣秀吉に降伏し、氏照は氏政と小田原城下で自刃。氏照は笛の名手であったと伝えられています。月夜峰は市内長房町と横川町の境の丘をいいます。共立女子学園構内に月夜峰の碑が建てられています。

㋮ 江戸幕府　西の守りの　千人同心

（八王子千人同心）

天正一八年（一五九〇）に小田原北条氏が滅亡し、関東に入国した徳川家康は武田の旧臣小人頭九名を中心とした武士団をもって八王子城下の治安維持、甲州口の警備にあたらせました。これが八王子千人同心の始まりとされています。初め五〇〇人で編成され、後年には一〇〇〇人に増員されました。慶安五年（一六五二）から日光東照宮の「火の番」を勤め、江戸後期には千人頭原半左衛門が、北海道勇払（苫小牧市）白糠（白糠町）に北辺の警備と開拓のため、同心の子弟を伴い渡りました。

お

大久保長安（おおくぼながやす）　基盤（きばん）つくりし　八王子（はちおうじ）

（大久保長安）

大久保長安は猿楽師（さるがくし）を父として天文一四年（一五四五）に生まれたと言われています。武士として甲斐武田氏につかえ、武田氏が滅亡後は徳川家康に取り立てられ、八王子に入り代官頭を務め、草創期の関東領国の行財政を支えました。その間に八王子城下の横山、八日市、八幡の三宿を、現在地に移転させて今の八王子の基礎を築きました。江戸開府以降は幕領の検地を行い、石見（いわみ）・佐渡・伊豆などの奉行を務め、さらに街道の宿駅伝馬制（しゅくえきてんませい）や一里塚などを整備し度量衡（どりょうこう）を統一させるなど、日本の各地に足跡を残しています。

㋕

川口郷　礎築いた　兵庫助

（川口兵庫助）

川口郷は平安時代の『和名抄』にでている多摩十郷のひとつで、現在の川口川の流域一帯といわれています。川口兵庫助は室町時代この地域の領主で、鳥栖寺（現・円福寺）を再興し、大般若経を寄進しています。館跡と思われる地に、地元の人々により碑が建てられています。明治時代には北村透谷が秋山国三郎と親交を結び、彼の名作「三日幻境」の舞台となりました。自由民権運動や武相困民党など八王子の近代化の先駆けとなった地域です。

㋕ 絹の道　鑓水商人　活躍す

（絹の道）

絹の道は神奈川往還の通称で、浜街道ともいわれています。安政六年（一八五九）横浜が開港され、鉄道が発達する明治のなかごろまでは津久井（神奈川）、郡内（山梨）地方などの生糸も八王子に集められ、この道を通り横浜より輸出されていました。その取引で生糸の仲買人として活躍したのが、鑓水商人です。「絹の道」という名は、ふだん記運動の橋本義夫氏が命名し、広く知られるようになりました。御殿橋から大塚山公園にある碑の前までが市の史跡に指定されています。生糸商人、八木下要右衛門の屋敷跡には「絹の道資料館」があります。

く

椚田（くぬぎだ）の　縄文遺跡（じょうもんいせき）　ひろびろと

（椚田遺跡）

椚田町にある縄文時代早期から古墳時代にかけての複合遺跡です。そのうち縄文時代中期中ごろ（約四五〇〇年前）から古墳時代（六世紀前半）までの住居跡が発見されています。特に縄文時代中期の集落跡がよく保存されていたことから、昭和五三年（一九七八）に国史跡に指定され遺跡公園となっています。公園は広い芝生公園で、説明板や縄文土器を表したメインゲート・モニュメントを配し、住居跡が表示してあります。勝坂（かつざか）式・加曽利（かそり）E式といった特徴ある土器が多数出土しています。

㊐

桂福寺　山門の上に　鐘撞堂

（桂福寺）

桂福寺は戸吹町の曹洞宗の寺院で、開山は昌譽上人です。創建年代は明らかではありませんが、寛永二年（一六二五）の説があります。慶安年間（一六四八～五二）御朱印地九石を拝領しました。旧本堂は寛永一六年（一六三九）に建立されましたが、昭和五二年（一九七七）、現在の本堂に改築されました。鐘楼山門は文政六年（一八二三）の建立で、朱塗りの二階建て、二階部分が鐘つき堂となっている珍しいものです。本堂左手には、幕末の新選組ゆかりの剣術、「天然理心流」の初代近藤内蔵助の墓とともに、二代目をついだ近藤三助の墓があります。

こ

広園寺　さわがしき世を　忘れさす

（広園寺）

広園寺は、山田町の臨済宗の寺院です。創建は康応二年（一三九〇）、開山は舜応令山和尚で、開基は大江広元の後裔・長井道広と伝えられています。現在残っている建物は、江戸時代中ごろの再建で、以前の建物は天正一八年八王子城落城の際に焼失しました。総門・山門・仏殿が南北に一直線に並び奥に本堂、東西に庫裏・開山堂が並ぶという臨済宗寺院の代表的な伽藍配置を継承していて、境内一帯は東京都の史跡に指定されています。応永一二年（一四〇五）、禅宗の教本「無門関」を刊行したことは有名です。

さ

山頂の神社　八王子の名の起こり

（八王子神社）

八王子神社は、八王子城山（深沢山）にあります。現在の市名の起源はこの神社に由来していると言われています。神社に伝わる扁額には、中央に大きく「八王子」の文字が鋳造され、その上下に「奉掛御神前　無心敬白」、左右に「武州多麻郡本八王子村深澤山　宝永二酉歳二月吉日横川村賀藤六郎次定」と刻まれています。銘文からこの額は、宝永二年（一七〇五）に横川村（現・横川町）の鋳物師、賀（加）藤次定らによって製作され、鉄舟無心によって奉納されたことが判ります。扁額は市の指定有形文化財になっています。

㋩ 信松尼　強く生きたり　戦国を

（信松尼）

信松尼（松姫）は、武田信玄の娘で永禄四年（一五六一）に生れました。永禄一〇年（一五六七）七才の時、織田信長の長男信忠と婚約しましたが、三方ケ原の戦いで、織田氏は敵となり婚約は破棄になりました。天正一〇年（一五八二）三月、武田氏滅亡後は恩方の金照庵に身を寄せ、後に心源院のト山舜悦の教えを受け、武田の遺臣の加護などを得て、御所水の里（現台町）に移り、庵をむすびました。元和二年（一六一六）松姫は五六才で生涯を終えるまで、この地で過ごしたと伝えられています。信松院には松姫の墓の他に木製の松姫座像、軍船の模型もあります。

㊦

諏訪神社　まんじゅう祭りと　龍頭舞

（諏訪神社）

大治元年（一一二六）長野県の諏訪大社を勧請したと伝えられる諏訪町の「おすわさま」です。毎年八月二六日・二七日に行われる例祭には、参道の出店で厄除けの「まんじゅう」が売られ、昔は氏子の家々でも、まんじゅうをつくって里帰りした親戚などと一緒に食べていました。そのため「まんじゅう祭り」ともいわれます。またその祭礼では市指定無形民俗文化財の「四谷の龍頭舞」が奉納されます。この龍頭舞は叶谷町の西蓮寺で享保年間（一七一六～三六）に始められたといわれています。

㊐ 千貫の　御輿で知られる　多賀神社

（多賀神社）

社伝によれば、天慶元年（九三八）源経基が、滋賀県多賀神社から分祀し、文応元年（一二六〇）には北条時頼が諸国巡行の折、古鏡を奉納祈願したと伝えられています。現在の本殿は江戸後期の建造です。大御輿は千貫御輿ともいわれ、明治一五年（一八八二）浅草から購入したと伝えられており、高さ二・五メートル、重さ三七〇〇キログラム（千貫）で、関東有数の大きさを誇ります。御輿は古代の形式にのっとった三輪御所車に乗せて、多賀神社例祭で曳かれていましたが、現在では八王子まつりで担がれています。この御輿は欅材の扁額とともに市指定の有形文化財になっています。

そ

『桑都日記』　古き時代を　書きつづる

（桑都日記）

千人同心の組頭塩野適斎が、天正一〇年（一五八二）から文政七年（一八二四）までの二四〇年間にわたる千人同心の歴史を、子孫に伝えるためにまとめた書物です。日記・図解・日記続編・図解続編から成っており、正続あわせて五〇巻あります。これによって、江戸時代を中心とした八王子の様子（周辺の史跡、地理、産物等）を知ることができます。極楽寺所蔵の稿本は東京都の有形文化財に指定されています。塩野適斎は学者ですが、太平真鏡流という剣術の使い手でもありました。

た

竹の鼻　宿の入り口　一里塚

（一里塚）

江戸時代、日本橋からの距離が旅人にわかるように、主要街道に一里（約四キロメートル）ごとに榎を植えて築かれた塚を一里塚といいます。八王子宿の入り口、竹の鼻の一里塚は、甲州道中江戸から一二里に当たり、榎が植えられていましたが、明治三〇年（一八九七）の八王子大火で焼けてしまいました。榎があったころ、その下は涼しい木陰となって往時を偲ばせていたといいます。現在は児童公園になっており、一里塚跡の碑が建っています。その隣には、初秋の「しょうが祭り」で知られる永福稲荷神社があります。

㋒

中世の　大石偲ぶ　永林寺

（永林寺）

永林寺は下柚木にあり天文元年（一五三二）創建といわれます。開基は滝山城主大石定久といわれ、当初永麟寺と称し、定久や北条氏照の保護を受けていました。後の徳川時代になると永林寺と改称し御朱印地十石を拝領しています。その山門は「由木の赤門」と称され、近隣に末寺を十数寺擁する格式ある寺でした。現在大鐘楼の他、三重の塔があります。境内は、大石氏の居館があったところといわれ、その裏山には碑と定久の銅像が建っています。大石氏は室町時代、関東管領山内上杉氏の家臣として、武蔵国守護代を長くつとめました。

つ

つぶらな眼　みどり児抱く　宮田の土偶

（宮田遺跡の土偶）

川口町宮田の台地で発掘された縄文中期の住居跡から、からだの一部が欠けた形で出土した幼児を抱く土偶は、全国に二例しかない母と子が一緒に表現された土偶です。縄文時代の母親の豊かな愛情を感じさせ、地母神信仰の女神像を想像させます。縄文時代を通して出土する土偶には、板状・ハート形・みみずく形などいろいろな形があります。その作成目的は女神信仰・呪物・護符・玩具など諸説がありますが、一様にはとらえられません。よく混同されますが、土偶と後の古墳時代の埴輪とは作成目的が異なっています。

て

出初め式　浅川河原に　木遣りが響く

（木遣り）

木遣りは労働歌の一種で、田植え唄や舟歌などと同類です。山から大きな重い木を運び出す人たちが掛け声として唄った歌で、「木遣音頭」とも言われます。それが、祭りや結婚式、上棟式などのお祝いごとでも唄われるようになりました。江戸時代に江戸の町火消しの人たちの間で盛んになり、現在でも中部東海から関東地方でよく唄われています。八王子の木遣りおは幕末の元治年間（一八六四～六五）に江戸の「本郷政」と呼ばれた木遣師より伝えられたといわれています。現在は八王子消防記念会で保存継承され、毎年出初め式などで唄われています。

と

時の鐘　町の変遷　眺めおり

（時の鐘）

上野町の念仏院に現存する市指定有形文化財の鐘です。人々に時を知らせるために、元禄一二年（一六九九）、八日市宿名主の新野與五右衛門が中心となり、千人頭や同心、八王子十五宿の人たちが費用を出し合って鋳造したものです。銅製で高さ一四八センチ、口径七九センチあります。その音色は和歌にも詠まれるほど優れ、「上野原晩鐘」として明治時代の八王子八景にも選ばれています。鐘は太平洋戦争時、市民の陳情により供出をまぬがれましたが、鐘楼は昭和二〇年（一九四五）の八王子空襲で焼失し、昭和二七年（一九五二）に再建されました。

な

夏祭り　自慢の山車が　勢揃い

（八王子まつり）

江戸時代から、上の多賀神社、下の八幡八雲神社の両社ともそれぞれの祭礼で各町内より山車が曳かれていました。昭和三六年（一九六一）に八王子市民祭がスタート、昭和四一年（一九六六）に一二台の山車が初めて参加しました。

昭和四三年に「八王子まつり」と改称され、山車の巡行が祭りの中心的存在となり、現在では「関東屈指の山車まつり」として知られるようになりました。まつりの期間中は、市指定有形文化財の山車のほか、各町会の山車を一堂に見ることができます。

㊐ ニュータウン　むかしは緑（みどり）の　多摩丘陵（たまきゅうりょう）

（多摩ニュータウン）

八王子市、多摩市、町田市、稲城市にまたがる国内最大のニュータウン開発（開発総面積約三〇〇〇ヘクタール）は昭和四〇年代（一九六五～）から始まり、道路や河川、交通網などが整備され、新しい街づくりが進められました。八王子では東南の丘陵が計画に含まれ、山林や畑が住宅地などへと変わっていきました。開発前の発掘調査で多くの遺跡が確認され、堀之内では珍しい縄文時代の土製仮面、松木では中央に墓地を設けた縄文時代の村の跡や、古代の水場が検出されるなど、さまざまな時代の住居跡や土器等が多数発見されました。

ぬ

ぬくもりの　カタクリの花（はな）　片倉城（かたくらじょう）

（片倉城跡）

ＪＲ横浜線片倉駅の西側にある丘が片倉城跡です。築城の年代、築城者の名前、いつごろまで使用されたかなどは正確には分かっていません。大江広元を祖とする長井氏よって室町時代に造られたといわれています。城は北を湯殿（ゆどの）川、南を兵衛（ひょうえ）川に挟まれた舌状（ぜつじょう）台地に位置しており、戦時には両河川の合流点に堰（せき）を築き城の周りを水堀とする構造を持っていました。鬼門となる東北部には住吉神社があります。現在は公園として整備されており、早春にはカタクリの花が群生しているのを見ることができます。

ね

ネクタイは八王子織物（はちおうじおりもの）の代名詞（だいめいし）

（織物）

江戸時代、八王子周辺で織られた絹織物が八王子の市に集まり取り引きされていたので、八王子織物と呼ばれています。明治末から大正始め、市内では動力（電気）による大量生産が始まり、従来の先染絹織物（縞模様）よりさらに高度な紋織り（模様織り、柄織り）が生産されました。ネクタイは昭和五年（一九三〇）ごろから、紋織り技術を応用して本格的に生産が始まり、最盛期の昭和三〇年末～四〇年初めは、全国のおよそ五〇％以上を占めていました。

の

野面積（のづらづみ）　昔（むかし）を残（のこ）す　八王子城（はちおうじじょう）

（八王子城跡）

八王子城は戦国時代の末期、小田原北条氏の領主氏康（うじやす）の三男氏照（うじてる）によって築かれた城で、その構造は急峻（きゅうしゅん）な地形を利用した要害部と城主氏照の御主殿を中心とした居館（きょかん）地区、家臣団の屋敷・寺院の根小屋（ねごや）地区、外郭の防御施設群からなっています。天正一八年（一五九〇）六月二三日、秀吉軍の前田・上杉勢により一日にして落城しました。石垣で囲まれた御主殿からは、中国製の陶磁器など多様な遺物が発掘されました。野面積とは自然の石を積みあげて石垣を築く方法で、石の大きさが一定でないのが特徴です。平成一八年（二〇〇五）、日本百名城に選ばれました。

㊧

白山神社（はくさんじんじゃ）　経筒（きょうづつ）いでし　船木田荘（ふなきだのしょう）

（白山神社の経筒）

由木中山の白山神社から経塚が発見されています。経塚は平安時代の末法（まっぽう）思想により書写した経典を青銅製の筒に納めて地下に埋納して塚を築いたものです。出土した紙本経（しほんきょう）の奥書に「仁平（にんぺい）四年（一一五四）九月二日武蔵国西郡船木田御庄内」と書かれたものがあり平安時代末期に八王子市域に船木田荘という荘園があったことが明らかになりました。白山神社からは数回にわたり経筒などが出土しました。出土品は都内の経塚出土資料では質・量ともに優れたもので、東京都の有形文化財に指定されています。

ひ

一目千本　桜と空堀　滝山城

（滝山城跡）

滝山城は、加住丘陵に築かれた城です。大永元年（一五二一）武蔵国守護代の大石定重が、この城の北西約一・五キロの高月城から移り築城したものと伝えられています。のちに大石氏の養子となった北条氏照が大規模に改修し、関東屈指の城郭となりました。空堀と土塁で囲まれた遺構がよく残されています。周辺は四季を通じて豊かな雑木林が心を和ませ、今では桜の名所として有名です。滝山城下には横山・八日市・八幡の三宿が形成され、市も開かれていたといわれています。平成二九年に続日本百名城に選ばれました。

ふ「ふだん記」のままで生きた　橋本義夫

（橋本義夫）

橋本義夫は明治三五年（一九〇二）に楢原町の旧家に生れました。二〇歳のころ「白樺」に傾倒し、のちに教育活動や文化運動をすすめました。多摩郷土研究会を結成したり、地域で忘れられた人々を発掘し、後世に伝えるために建碑運動を展開するなど、民衆の歴史を明らかにしようとしたことで知られています。また昭和四三年（一九六八）ころ、「ふだんぎ」という冊子を発行、誰でも書ける文章を提唱して「ふだん記」運動を始めました。この運動は自分史の源流となって全国に広まっていきました。

㋹ ベネチアの　ガラスあらわる　御主殿跡（ごしゅでんあと）

（ベネチアガラス）

平成四年（一九九二）六月、八王子城御主殿跡から一六世紀のベネチア（イタリアのベニス）製レースガラスの破片が三七点発見されました。破片は一つのガラス器と考えられ、全体の形は、おそらく低い脚をそなえた丸い胴体の広口壷と思われます。ベネチアガラスは、大阪市・長崎市・仙台市などでも発見されていますが、レースガラスは、中世の城郭では今のところ八王子城跡でしか見つかっていません。このレースガラスの発見は、城主北条氏照（うじてる）の生活ぶりを窺（うかが）わせるとても貴重な資料です。

ほ

宝生寺　鎌倉中期の　毘沙門天

（宝生寺）

室町時代、僧明鏡により創建された宝生寺は、西寺方町の真言宗の寺院です。戦国時代、北条氏照の庇護を受けており、氏照の書状が残されています。鎌倉中期作とされる寄木造りの「毘沙門天立像」が安置されています。天正一八年八王子城攻防のおり、僧たちは戦勝祈願をしながら城内にとどまったと伝えられています。また、この辺りは大幡・紙谷といわれ、大幡紙、別名「端切らず」と呼ばれる丈夫な和紙の産地でした。湧水池やわずかに残る楮の木にその名残をとどめています。

㊨

間(ま)が大事(だいじ)　説経節(せっきょうぶし)の　語(かた)り口(くち)

（説経浄瑠璃）

元来は仏教でお経を説くためのものでしたが、節回しが良く民間信仰や、説話、音曲をとり入れ、次第に民衆芸能化した語り芸です。江戸時代には、人形芝居と組んで、京・大坂・江戸等で盛んになりました。一時義太夫節に圧倒されて衰退しましたが、幕末に再興し、関東周辺で正月や祭礼、車人形や写し絵の地語りとしても語られるようになりました。八王子では、大正～昭和初期頃に盛んになりましたが、その後衰退し、現在は、「説経節の会」が保存伝承・後継者育成に努めています。

�み

みなみ野に平安時代の窯跡群

（御殿山窯跡群）

八王子の南部地域には「谷戸」といわれる小さな谷間が数多く見られ、その丘陵を利用して平安時代の九～一〇世紀に瓦や食器が焼かれていました。最近では、みなみ野シティ開発区域の発掘調査で御殿山窯跡群といわれる登窯の窯跡が多数発見され、須恵器や瓦が出土しました。須恵器は古墳時代に朝鮮半島より伝わった新しい技法で、硬くて丈夫な土器です。これまでの土師器に比べ、いろいろな形状の土器が作られています。この地域は地形が窯を作るのに適し、原料の粘土が得やすく、燃料となる木々が豊富であったと思われます。

む

室町の　薬師堂あり　西蓮寺

（西蓮寺）

西蓮寺（真言宗）は、「武蔵名勝図会」によると、かつては滝山城付近にありました。その後叶谷町花川に移され、華川山不動院と称しました。明治二八年（一八九五）金谷寺と合併した際に現在の大楽寺町に移転しました。薬師堂は八王子最古の建物で、室町時代末期に建てられ、寄せ棟造りで現在は銅板葺きです。東京都指定有形文化財に指定されています。堂内には天正一八年（一五九〇）の八王子城攻めの際、前田利家軍が兵糧の炊き出しで焦がした跡があったそうですが、改修によって今は見ることができません。厨子は江戸初期のもので本尊の薬師如来三尊を安置しています。

㊍

目にとまる　八王子芸妓の　あでやかさ

（八王子芸妓）

「織物のまち」として栄えた八王子には、全国から商人が織物の買い付けに訪れ、桑都の商人たちは料亭で客人をもてなしました。八王子を訪れる人びとへのおもてなしだけでなく、まちの人びとのおめでたい場に華を添えたのが、八王子の芸妓衆です。演目の中には織物の民謡である「八王子オリャセ節」があり、唄や踊りを通じて、織物のまちの歴史や文化を伝えています。

㊫

紅葉山（もみじやま）　天狗（てんぐ）うちわの　高尾山（たかおさん）

（高尾山）

標高五九九メートルの山。東京を代表するハイキングコースです。古くから信仰上、戦略上の理由から手厚く保護されてきたため、自然がよく残っています。山上にある高尾山薬王院有喜寺は、寺伝によれば天平（てんぴょう）一六年（七四四）行基（ぎょうき）が開山し、永和年間（一三七五～七九）僧俊源（しゅんげん）が真言密教を伝え中興開山しました。飯縄信仰（いづなしんこう）を軸とする山岳信仰の霊山としても知られ、その信仰圏は関東一円に及びます。天狗は、本尊飯縄大権現のお使いとして、天狗うちわなどで親しまれています。平成一九年（二〇〇七）ミシュランガイドで、最高ランクの〝三つ星〟の観光地に選ばれています。

や

山を越え　甲斐信濃への　小仏峠

（小仏峠）

小仏峠は八王子市裏高尾町と相模原市緑区千木良との境にある峠です。五四八メートルの高さで、戦国時代より甲斐の武田氏と小田原北条氏の領国を二分して戦略上も重要拠点でした。北条氏照は武田勢の侵攻に備え、峠に関所を設けましたが、江戸時代になり現在の場所に定められ、「入り鉄砲に出女」といわれるように、人々の通行は監視されました。街道は整備され五街道の一つといわれるようになり、甲斐・信濃国と江戸との往来は便利になりました。明治時代に現在の国道二〇号線が開通し、昔の街道はハイキングコースになっています。

ゆ

湧水（ゆうすい）や　子育て（こそだ）祈願（きがん）の　子安神社（こやすじんじゃ）

（子安神社）

子安神社は天平宝字三年（七五九）に創建されたと伝えられています。古くから船森（ふなもり）明神・子安明神といわれ、安産・子育ての神として広く信仰されています。船森とは、八幡太郎義家（はちまんたろうよしいえ）が戦勝祈願のため欅（けやき）一八本を舟形に植樹して奉納した由緒によると伝えられています。神社には市指定有形文化財の懸仏（かけぼとけ）が現存しています。懸仏は神道のご神体となる鏡と、仏教の仏像とが合体した神と仏が習合した信仰対象です。境内にある「大明神の池」は、今も水が湧き続けている心安らぐ場所です。

よ

養蚕（ようさん）の　おもかげ伝（つた）える　桑畑（くわばたけ）

（養蚕）

八王子地域は丘陵地帯で耕地が狭く、稲作に適さない自然環境のもと、古来より養蚕や機織（はたおり）が発達してきました。江戸時代には、糸や織物の「市」が立つまでになり、八王子は「桑都（そうと）」とも呼ばれるようになりました。とくに江戸末期より明治にかけては郡内（ぐんない）（山梨）・津久井（神奈川）・西多摩（東京）などからも生糸が八王子に集められ、鑓水（やりみず）の「絹の道」を通り外国へ輸出されていました。養蚕には欠かせない桑畑も都市化とともに大きく減少し、現在ではわずかな地区にしか残っていません。

ら　ランドセル　地蔵に託す　母の愛

（ランドセル地蔵）

泉町の相即寺にランドセルを背負った子どもの石地蔵があります。相即寺は天文一五年（一五四六）に創建された古い寺で、境内には八王子城落城時の戦死者を弔うための地蔵堂があり、一五〇体の地蔵がまつられています。昭和二〇年（一九四五）七月八日、東京から学童疎開で来ていた神尾明治君が米軍機の機銃掃射で亡くなりました。お母さんは我が子に似ている石地蔵に明治君が愛用していたランドセルを、供養のために背負わせて東京に帰りました。以来その石地蔵を「ランドセル地蔵」と呼ぶようになりました。

⑤ 龍光寺（りゅうこうじ）　市内最大（しないさいだい）の　板碑（いたび）あり

（板碑）

板碑は、主に鎌倉時代から室町時代に武士たちが精神のやすらぎをもとめて、追善（ついぜん）・逆修（ぎゃくしゅ）を目的として造ったものです。緑泥片岩（りょくでいへんがん）といわれる緑色をした石の表面には、主尊（仏）を表す文字や画像・造立年月・人物名などが刻まれています。宇津木町龍光寺の板碑は、文和（ぶんな）二年（一三五三）に造られたもので、高さ一六八センチ、幅四三センチの大きなものです。薬研（やげん）彫りの六字名号「南無阿弥陀佛」を主尊とした大名号板碑として名高く、碑面に一〇六名の法名（ほうみょう）が刻まれ、時宗（じしゅう）の宗教活動の活発さを示すものといわれています。

る

るり色の　オオルリが鳴く　明治の森

（市の鳥）

オオルリは、八王子市制七五周年を記念して平成三年（一九九一）に市の鳥と定められました。ヒタキ科の中では一番大きく、全長約一六センチです。オスは頭から背中が光沢ある瑠璃（青）色、腹は白で、メスは褐色で腹はオスと同じく白です。ピールーリージッジッと、とても美しい声で鳴きます。渓流沿いの林に住み、昆虫や果実を食べます。九州以北に東南アジアから渡来する夏鳥です。明治の森とは、高尾山一帯の国定公園をいい、明治百年記念事業の一つとして指定され、東海自然歩道の起点となっています。（なお、市の花はヤマユリ、市の木はイチョウです。）

㋹ 歴史説く『新編武蔵国風土記稿』

（新編武蔵国風土記稿）

江戸後期、文化七年（一八一〇）から文政一一年（一八二八）にかけ、幕府により編さんされた武蔵国の風土や歴史を、村別に記載した地誌です。そこでは、武蔵国に関する地理、歴史、自然、風物について詳しく述べられ、江戸時代における各村々の事情を知ることのできる貴重な文献資料となっています。完成まで多くの人がたずさわり、八王子でも千人頭の原胤敦と組頭の植田孟縉・塩野適斎らが、現地調査を経て多摩、秩父、高麗三郡の成果をまとめました。三人の墓所はそれぞれ上野町（本立寺）、滝山町（宗徳寺）、大横町（極楽寺）にあります。

ろ

ろくろ車　一人遣いの　車人形

（八王子車人形）

車人形は江戸時代の終わりころ、西川古柳（山岸柳吉）により考案された人形芝居です。人形の動きの鍵を握る「ろくろ車」は前に二つ後ろに一つの車を仕込んだ箱車のことで、人形を操る人がそれにすわり、人形の足を自分の足に固定し、前後・左右・斜めと自在に動き廻るので人形の動きがよりリアルに感じられます。文楽では三人で一体の人形を操りますが、車人形は「ろくろ車」に腰かけて、一人で一体の人形を操るところに大きな特徴があります。大正のころ、三田村鳶魚が坪内逍遥や河竹繁俊などに車人形を紹介し、中央の舞台関係者を驚嘆させたとのことです。

㊐

和をもって　日光守った　弥次右衛門

（石坂弥次右衛門）

慶応四年（一八六八）板垣退助率いる東征軍は千人隊の守る日光に攻め入りました。その時日光勤番は、定番の千人頭荻原友親が急死したため、代番となった石坂弥次右衛門義礼でした。弥次右衛門は、家康を祀る東照宮をはじめ日光の寺社を戦禍から守るため、幕府軍が撤退した日光を、東征軍参謀板垣退助に明け渡しました。八王子に帰ると、幕府に忠誠を誓う保守派の問責を受け、責任をとって自刃しました。墓所の千人町興岳寺境内には、弥次右衛門の顕彰碑が建ち、墓前には、姉妹都市日光市から寄贈された香台があります。

ゐ

猪の鼻の　列車襲撃　忘れまじ

（湯の花トンネル）

第二次世界大戦の後半、日本国内の主要都市がアメリカに攻撃されるようになりました。八王子市は昭和二〇年（一九四五）八月二日の空襲で死者四五〇余名、負傷者約二〇〇〇名、市の中心街は大半が焼け野原となりました。さらに八月五日には長野行きの列車が中央線裏高尾の湯の花トンネル（地名は猪の鼻）に入る直前に米軍戦闘機に襲撃され、多数の犠牲者が出ました。現在、線路わきには慰霊碑が建てられており、毎年この日に慰霊祭が行われています。

笑みさそう　境内に立つ　五智如来

（五智如来）

緑町にある直入院の山門を入ってすぐ右手に並んでいる五体の如来像です。向かって右から釈迦・阿弥陀・大日・阿閦・宝生の各如来で、前者三体は延宝八年（一六八〇）、後者二体は元禄四年（一六九一）に造立されました。江戸の石工の手によるもので、元禄時代の江戸文化を伝えています。五智如来は、はじめ小門町や元横山町の別の寺の門前に建てられていましたが、戦災や区画整理により現在地に移転しました。小門町にあった当時、縁日にとうもろこしを売る露店が並んだことから「とうもろこし地蔵」とも呼ばれ親しまれていました。

㊧ おちこちに　彫刻（ちょうこく）のある　街（まち）の辻（つじ）

（彫刻）

八王子市は昭和五三年（一九七八）より「彫刻のまちづくり」を始めました。市内の商店街や駅前広場、橋、幹線道路脇、公園、公共施設などには一〇〇基以上の彫刻が野外展示されています。彫刻家北村西望（せいぼう）氏の『浦島-長寿の舞』（片倉城跡公園）、『将軍の孫』（八王子駅前入口交差点）、井上久照（ひさてる）氏『和の角笛』（八王子スクウェアビル東側）や現代アーティストの作品などが随所に置かれ、日常の中で市民が身近に芸術に接することができ、豊かな自然と歴史のまち八王子のもう一つの魅力となっています。

ん

ん！よしっ　桑都（そうと）の誇り　日本遺産

（日本遺産「霊気満山　高尾山　～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」）

「日本遺産」は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定する制度です。

養蚕や織物が盛んだったことから「桑都」と称された八王子の発展の歴史を、霊山・高尾山への人びとの祈りをテーマに語るストーリーが、令和二年に日本遺産に認定されました。八王子の地に育まれた豊かな文化を未来へと紡いでいく物語です。

郷土と歴史

桑都八王子かるた

二〇〇四年一二月一日　初版発行
二〇一二年一二月四日　改訂版発行
二〇二一年三月三一日　日本遺産改訂版発行

編集　八王子市郷土資料館ガイドボランティア
発行　八王子市郷土資料館

※箱　八王子宿（独立行政法人国立公文書館蔵『新編武蔵国風土記稿』より）